

「家庭基礎」学習指導案

広島県立上下高等学校

教諭 大島 優子

本学習指導案のポイント (高校教育指導課 指導主事 松田 百合)

本学習指導案では、生徒に食品の選択を疑似的に体験させることにより、食品の表示、食品添加物の役割等に関する知識に基づき、目的や理由を持って食品の選択を行うことができるようになることを目指している。生徒が臨場感を持って食品の選択について考えられるようにICTを効果的に活用したり、生徒にとって身近な存在である、他教科の教員の食品選択の理由等を紹介したりすることで、様々な価値観や考え方に触れることができるよう工夫されている。

1 実施日：令和元年11月5日(火) 6限：14時30分～15時20分(50分)

2 学年・学級：1学年1組(24名)

3 小単元名：食品の選択と取り扱い

4 単元について

(1) 単元観

本小単元は、学習指導要領の内容(2)ア 食事と健康の、栄養と食事を踏まえて設定したものである。現代の食生活の問題点を取り上げる中で、各家庭の課題に着目させるとともに、食生活の安全や衛生について、調理実習と関連付けながら理解を深めさせ、食にかかわる情報を適切に判断し、健康で安全な食生活を営むことができるようにすることをねらいとしている。

(2) 生徒観

生徒アンケートによると、家庭科の学習内容として、食分野に興味がある生徒がもっとも多い反面、食生活の安全と衛生についての関心度は30%程度と低い。また、小・中学校で学習してきた家庭科の内容については、覚えていないと回答する生徒が多い反面、覚えていると回答した生徒の記述内容は豊富であり、既習内容の定着には個人差が大きいことが伺えた。食品を購入する際に意識することは、期限表示や価格に関するものと答えた生徒が大多数であり、表示を確認して購入すると回答した生徒が少ないことが分かった。

(3) 指導観

朝食の欠食、肥満、痩せすぎなどの問題を取り上げ、BMIの計算やアンケートによって自分の食生活を振り返らせて問題点に気付かせたり、食品群別摂取量の目安を用いて各家庭の状況を把握させたりすることで、学習内容と自分自身の食生活を結びつけ、興味関心を高めさせる。また、身近な存在である教職員のインタビューを紹介することにより、食品の選択について様々な考え方があることを理解させた上で、自分や家族の食生活の安全・衛生の向上を図る食品の選択の在り方について、考えさせるようにする。授業の展開においては、ペアトークやグループ活動を組み合わせ、食品の選択についての考え方について意見を交換させることで思考が深まるようにする。

5 単元の目標

健康で安全な食生活を営むために必要な栄養、食品、調理及び食品衛生などの基礎的・基本的な知識を習得し、生涯を見通した食生活を営むことが出来るようにする。

6 単元の評価規準

思考・判断・表現	知識・理解
家族の現在の食生活について課題を見付け、その解決を目指して思考を深めている。	栄養、食品、調理、食品衛生などについて理解し、家族の食生活を健康で安全に営むために必要な基礎的・基本的な知識を身に付けている。

7 指導と評価の計画(全2時間)

次	学習内容(時数)	評価			
		思	知	評価規準	評価方法
1	食品の選択(1) 本時	◎	○	・食品の表示、食品添加物について理解している。 ・食品選択の理由を明確にし、表現している。	ワークシート 定期考査
2	食品の保存(1)	○	◎	・生鮮食品と加工食品の特徴を理解している。 ・食品の適切な保存法を考察し、まとめている。	ワークシート 定期考査

8 本時の展開

(1) 本時の目標

食品添加物の役割を知るとともに、食に関わる情報を判断しながら、食品を選択し、その理由を表現することができる。

(2) 観点別評価規準

- ・食品選択時に必要な情報を理解している。【知識・理解】
- ・食品の表示等に基づいて食品を選択し、その理由を表現している。【思考・判断・表現】

(3) 研究仮説

無数に正解がある内容をテーマに議論することで情報活用能力が高まるだろう

(4) 準備物

教科書・ファイル・筆記用具・パソコン・プロジェクター

(5) 学習の展開

	学習活動	指導上の留意事項	評価規準 (評価方法)
導入 10分	1 食品購入時の判断材料を考える。 ・ABCのウィナーのうち、どれを購入したいか考える。	・購入理由を発表させる (スライドで食品の表示を提示) ・正しい情報を知らないで食品を選択することの危険性に気付かせる。	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <b>【食品に関する様々な情報を収集し、自分で判断して食品を選択できるようになる】</b> </div>			
展開 30分	3 食品選択時の情報収集について考える ・添加物、産地、遺伝子組み換え食品、食品ロスについて理解する。  課題を設定する 「食品を選ぶときに必要な情報とは何だろうか?」	・数人の先生の食品選択に関する個人の意見を紹介する。 ・添加物、産地、遺伝子組み換え食品、食品ロスについて理解させる。 (スライドで情報を提示)	食品の表示、食品添加物について理解している。 <b>【知識・理解】</b> (定期考査)
終結 10分	・班ごとに、提示された食品の選択を行いその理由をホワイトボードにまとめる。 ・クラス全体で様々な考え方があることを共有する。	・選択理由を明確にして記入するように指導する。 ・正解は無いので、自由に記入するよう声かけをする。	食に関わる情報を判断しながら、食品を選択し、その理由を表現することができる。
	4 授業を振り返る ・導入時のABCの食品選択について再考し、選択した理由を具体的にまとめる。 ・数人、発表する。	・様々な情報から選択することの重要性を確認し、自分の言葉でまとめるよう伝える。	<b>【思考・判断・表現】</b> (ワークシートへの記述)

(6) 判断基準

評価	思考・判断・表現
A(十分満足できる)	自己や家族の健康、安全及び環境などの視点から食に関わる情報を適切に判断しながら食品を選択し、その理由を具体的に表現することができる。
B(おおむね満足)	自己や家族の健康、安全及び環境などの視点から食に関わる情報を判断しながら食品を選択し、その理由を表現することができる。
C(努力を要する)	選択肢から食品から選び、その理由を表現することができる。

※Cの生徒への手だて

食品の選択理由を自身の食生活と関連付けて具体的にイメージさせるようにする。